

Paleontological study of the Miocene Togeshita molluscan fauna in the Rumoi district, Hokkaido

著者	Amano Kazutaka
内容記述	Thesis--University of Tsukuba, D.Sc.(A), no. 144, 1982. 3. 25 4 fold. maps and 3 fold. tables in pocket
発行年	1982
URL	http://hdl.handle.net/2241/5944

氏 名 (本 籍) ^{あま}天 ^の野 ^{かず}和 ^{たか}孝 (静岡県)

学 位 の 種 類 理 学 博 士

学 位 記 番 号 博 甲 第 144 号

学 位 授 与 年 月 日 昭和57年 3 月 25 日

学 位 授 与 の 要 件 学位規則第 5 条第 1 項該当

審 査 研 究 科 地球科学研究科 地質学専攻

学 位 論 文 題 目 **Paleontological study of the Miocene Togeshita molluscan fauna in the Rumoi district, Hokkaido** (北海道留萌地域の中新統峠下軟体動物群の古生物学的研究)

主 査 筑波大学教授 理学博士 猪 郷 久 義

副 査 筑波大学教授 Docteur-ès
-Science 佐 藤 正

副 査 筑波大学教授 理学博士 青 木 直 昭

副 査 筑波大学助教授 理学博士 野 田 浩 司

論 文 の 要 旨

北海道留萌地域に分布する峠下層は中新世の豊富な化石軟体動物群を含むことが判明していたが、従来その詳細な古生物学的研究は全く行なわれて居らず、北海道の第三系研究の一つの盲点であった。著者はこの峠下層とその上下に発達する第三系の層序学的研究を行なうと共に、峠下層から多数の貝化石を採集し、化石層序学、古生態学的研究を行ない、それぞれの種属を分類記載した。その主な内容は以下の通りである。

(1) 本地域の新第三系は下位より、ユードロ層、峠下層、増毛層、留萌層、幌糠層と区分される。峠下層に含まれる貝化石を群集解析の結果、6 新種 1 新亜種を含む巻貝 30 種、二枚貝 50 種を識別した。さらに層序学的研究によってこの化石群集は下部と上部峠下化石群集に区分されることを明らかにした。

(2) 下部峠下化石群集はさらに *Corbicula*—*Crassostrea*, *Pitar*—*Anadara*, *Mercenaria*—*Clinocardium*, *Mya*—*Turritella* の 4 群集からなり、それぞれ湾奥の潮間帯、内湾の上部浅海带、湾口の中部浅海带、公海の下部浅海带に生息したもので、多くの寒流系種と少数の暖流系種からなることを明らかにした。上部は *Anadara*, *Mercenaria*—*Clinocardium*, *Mya*—*Nuttallia*, *Turritella*—*Mya* の 4 群集からなり、生息環境は上部浅海带から下部浅海带で寒流系の種からなる。

(3) 以上の層序学的・古生物学的研究に基づいて峠下化石群集と、樺太、カムチャッカ、ならび

に北海道各地や本州の類似群集との対比を試み、下部峠下化石群集は中期中新世後期、上部は中新世後期であると結論した。

(4) 採集した多くの貝化石は分類記載され、これによって従来不明瞭であった峠下化石動物群の全貌が始めて明らかとなり、本邦中新世の重要な貝化石群集であることが判明した。

審 査 の 要 旨

貝化石は北太平洋地域の第三系の化石層序学を確立する上で極めて重要である。著者はこれまで不明の点が少なかった峠下層を研究し、多くの新知見をもたらした。その結果、本論文のもつ意義を要約すると次の2点があげられる。

(1) 峠下層の貝化石群集の全貌を明らかにしたことによって、これが北海道のみならず、本邦の重要な中新世中期から後期にかけての貝化石群集であることを明確にした。さらにこれらの化石種の生息環境から古地理の変遷の推定を行ない、当時の北海道の水陸分布や自然環境の復元に多くの資料をもたらした。

(2) 多数の貝化石を詳細に分類記載したことによって、北海道、本州、さらに樺太、カムチャッカ、アラスカから広く北太平洋地域の貝化石群集との対比を容易にし、本論文は新生代の化石層序学の確立に大いに寄与するものと考えらるる。

なお本論文で、著者が取り扱った峠下化石動物群についてのより明確な再定義、他地域、特に本州の同時代の化石群集への対比などに記述上不備な点がないわけではない。これらが本論文の価値を損うものではないが、今後さらに研究を進める上で十分の検討が望まれる。

よって、著者は理学博士の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。